

中丹地域振興計画（中間案）

1 中丹地域の将来像（20年後に実現したい姿）

～ 心つながる田舎の魅力と都市機能の両方を享受し、
海・里山・まちを舞台に 求める暮らしが実現できる地域を ～

- 「田舎暮らし」「まちなか暮らし」「二地域居住」など、一人ひとりの事情と希望に応じた多様なライフスタイルが実現できる地域
- 農林水産業から製造業、サービス業まで様々な産業が活発に行われ、働き方も自営から就業まで幅広い選択ができる地域
- 若者がしっかり地域に定着し、子どもから高齢者まで住民がいきいきと暮らす中で、経済活動や地域活動の好循環が、更なる移住・定住につながる持続可能な地域

2 施策の基本方向

【基本的な視点】

- 一人ひとりの尊厳と人権の尊重 ○多様な主体との連携・協働 ○地域における施策の総合的実施

【4年間の対応方向（主なもの）】

（1）「育・職・住」の充実により若者が定着したくなる持続可能な地域づくり

- U I ターンの促進、人権の尊重、子育て環境の充実などによる魅力ある地域づくり
 - ▶ 大学等教育機関・企業・行政の連携のもと未来の担い手が地域で働き暮らすことへの意識付けや「地域の魅力カタログ」をもとにした新しい仕事の創出
 - ▶ 移住希望者の掘り起こしと地域とのマッチングによる移住・定住促進、空き家・空き店舗等を活用した農家民宿や農家レストラン等の魅力ある仕事おこし支援と地域コミュニティの交流拠点づくり
 - ▶ 子育て団体や企業等が参画する「中丹圏域子育て未来づくり 100 人会議(仮称)」の立上げ
- 地域産業の振興、雇用の促進などによる魅力ある地域づくり
 - ▶ 「北部産業創造センター」の技術支援をはじめ、同センターを活用した地元高等教育機関と中小企業との交流・共同研究等による新産業の創出
 - ▶ 京都舞鶴港海外航路や高速道路網などのインフラを活かした産業立地の推進及び関係機関との連絡調整による立地に係る法規制、住宅等諸課題の解決
 - ▶ I C T の活用等による万願寺甘とう、紫ずきん、丹波くり、丹後とり貝、舞鶴かに等ブランド力のある製品の生産拡大など「儲かる農林水産業」の推進

（2）「もうひとつの京都」の推進による交流の拡大

- インフラと地域資源を活かした観光交流の拡大や「関係人口」の創出
 - ▶ 農観連携の推進と「農家民宿村」の創設、地域外住民による「地域応援団」の形成
 - ▶ DMO と連携したクルーズ客の回遊促進と京都舞鶴港の国際ふ頭・第2ふ頭岸壁・アクセス道路の整備による港湾機能強化

（3）国土強靱化の推進による災害に強い地域づくり

- 社会基盤整備と災害対応力強化を組み合わせた安心・安全な暮らしの確保
 - ▶ 森林から河口までの「総合的な治山・治水・流域対策」の推進

3 エリア構想（北部グローバル構想）